

人と魚と海のネットワーク  
香川県漁連ホームページ  
http://www.jf-net.ne.jp/kagyoren/  
E-mail:gyoren@kagawa-  
gyoren.or.jp



**JF** 高松市北浜町 8 - 25  
TEL 087-825-0350  
J F 香川漁連 FAX 087-851-0699

## 京阪神地域水産物流通懇談会を大阪で開催

本会では、香川県等との共催で、県産水産物の消費拡大を図ることを目的に「京阪神地域水産物流通懇談会 & 量販店キャンペーン」を1月23日に大阪市内のホテル及びスーパーマーケットで開催した。

午前10時30分より市内ホテルで開催した懇談会では、香川県側から真鍋武紀香川県知事、宮本恵百農政水産部長、服部郁弘本会会長、嶋野勝路香川県かん水組合長他11名が出席、量販店側からは阪神百貨店内で鮮魚のテナントを運営する川口保俵阪神髭定社長を始め、京阪神地域の量販店7社のマネージャー、担当バイヤー9名が出席した。真鍋知事の主催者挨拶、川口社長の来賓挨拶につづき、香川県側から、県内水産物の現状と振興策、香川県漁連の事業概要、香川県かん水組合の養殖魚の品質向上への取り組みについて説明し、流通関係者からは、最近の水産物の情勢について報告を受け、その後昼食を取りながら消費、流通動向について意見交換を行った。出席者からは、「香川県漁連の朝ハマチを取扱い、消費者に好評を博しているが、新鮮さをもっと訴求したいので、昼ハマチが出来ないか。」とか、「香川県産天然魚をもっと積極的に扱い、香川県産魚の産直市を実施したい。」との意見等が提案された。

また、話題提供として昼食のメニューに出された県産ブランドのナシフグ(讃岐でんぶく)のてっさ、塩焼きが美味しいので取り扱いたい等、活発に意見交換が行われた。この懇談会は、昨年までは市場関係者との懇談であったが、今年は新しい試みとして、第一線に立っているマネージャー、バイヤーとの意見交換としたため、いろいろな角度からの意見が出され、有意義な懇談会となった。

また、懇談会に合わせて市内の関西スーパー大和田店では、早朝からおさかなシャトルで、子供連れの来店者を対象に「お魚ビンゴゲーム」を行ったり、県魚ハマチを使った「さぬき出世鍋」を提供してキャンペーンを展開した。午後4時30分には、真鍋知事、服部会長らが同スーパーを訪れ、鮮魚売場を視察後、「焼のり」や「さぬき出世鍋」を配りなが

ら、買い物中の主婦らに県産水産物の購入を呼び掛けた。これら一連のキャンペーンは大変好評で、鮮魚売場で販売していた県産ハマチ(約3.7kgサイズ)の切り身も完売し、有意義な懇談会を閉じた。

今回の懇談会とキャンペーンでは、量販店の担当者そして一般消費者からも香川県産水産物が高く評価されたことから、今後ますます安心・安全を肝に命じ、販路拡大に努力すべきと痛感した。



キャンペーン中の真鍋知事と服部会長

## 海づくり大会プレ講演会開催

今秋10月3日に、香川県高松市で「第24回全国豊かな海づくり大会」が開かれるが、このたび、250日前イベントとして1月27日高松市内の香川県社会福祉総合センターで講演会が開かれた。

催されたのは「農畜水産が一体となった環境保全豊かな海づくりを目指して」の講演会で、主催は「第24回全国豊かな海づくり大会香川県実行委員会」と「(社)海と渚環境美化推進機構」。講師には、東京から農林水産省総合食料局の今城健晴計画課長と、市民団体ウーマンズフォーラム魚(WFF)の白石ユリ子代表を迎え、会場に詰め掛けた市民ら約150人が熱心に耳を傾けた。

冒頭、実行委員会を代表して挨拶に立った香川県農政水産部の宮本恵百部長は、「この大会開催にあたり、稚魚の放流などさまざまな事業を予定している。県内外から5万人の集客を見込んでおり、郷土香川の魅力を全国に発信する絶好の機会」と語った。

つづいて今城課長が「農林水産業・食品産業と環境」と題して講演。「農林水産・食品産業の国内での位置付けは、GDPでは約1割に過ぎないが、日本の国土の成り立ちからみて、農林水産業は大切な役割を担っている。これからほんとうの意味で国を守っていくために、どこに重点を置くかを考えながらプロパガンダを進めるべき」と説き、「その意味でも海づくり大会など、子どもたちから大人まで広く社会に海と魚の大切さをわかってもらうイベントを進めていくことは必要」と語った。さらに「水産業は持続的利用管理に加え、外からの負荷も加わり、農業より難しいところで成り立っている。これからは、海に対する負荷を軽減するような循環型の仕組みづくりを基本にすすめるべきだ」との認識を示した。

また、白石ユリ子代表は「第一次産業の環境保全は消費者とともに」と題して講演。「日本は世界でもまれな海の幸に恵まれた国なのに、魚食文化に無関心な日本人が多すぎる。教育されていない」と強調。ウーマンズフォーラム魚を立ち上げたきっかけとなった欧米風の食生活への変遷を語り、魚の切り身しか見たことがない母親、魚を理解する消費者の激減、輸入に頼っている日本の現状などの問題を挙げた。

海と魚を知ってもらうため、都会の小学生に漁村体験をさせたり、漁業者の女性と都会の若い母親との交流会を開いたりしている活動事例を紹介。さらに捕鯨バッシングなど世界からの日本の評価については、「日本人からのアピールが足りない」と訴え、「第一次産業を国民全体で守ることが大切」と、食生活の見直しを呼びかけた。



魚食文化の重要性を説く白石代表

## 第24回全国豊かな海づくり大会開催記念

「海を愛する子供たちの絵画・作文コンクール」  
入賞作品の紹介

## 香川県漁業協同組合連合会長賞

### [小学校低学年の部]

#### 「海ではたらくおとうさん」

坂出市立岩黒小学校2年 中村 もえ子

わたしのおとうさんはいわ黒じまで、さかなをとるしごとをしています。せとない海でいろいろなさかなをとっています。

このごろは、たいがたくさんとれるのでおじいさんやおとうさんもよろこんでいます。

たいをとるためにおとうさんやおじいさんは夕方六じごろにりょうに出ます。そして、夜中までりょうのしごとをします。大きなたいになると五十センチぐらいの大きいものもとれるそうです。りょうをおえたら午前二じごろにおか山の下ついのいち場へとれたさかなをもっていきます。大りょうのときはふねの水そうがあふれるほどになります。そのときはしごとのつかれも少ないのですが、あまりとれないときは、とてもつかれるそうです。

おじいさんはよくむかしの話をしてくれます。「おとうさんが子どものころは海がきれいであるいろいろなさかながようけあったんや、春にはこのへんでもでっかいサワラがとれよったんや。」と、よく言っています。わたしが、「どうしてとれんの。」と聞くと、「海にごみが多くなって、海の水がよごれてきたからのう。」と少しさみしそうに言います。だから、ちかごろは、小さなさかなのちぎよをとらないように大きな目のあみをつかっていると話してくれました。それでも、おとうさんがせつかく遠くの外へ出かけてもクラゲばかりでさかながとれないこともあるそうです。そんなときは、ほかのりょうしの人とそうだんしてどこの場しょがいいのか、いつごろのじ間がよくとれるのか話し合うそうです。

そのことを聞いて、海の上でさかなをとるしごとをしているおとうさんは大へんだなあと思いました。わたしは海がもっときれいになってさかながたくさんとれるようになってほしいと思います。そして、おとうさんにいつもえ顔でいてほしいです。

## 香川県漁業協同組合連合会長賞

### [小学校高学年の部]

#### 「志度漁協親子漁業体験に参加して」

さぬき市立志度小学校 5 年 柴田 啓志

夏休みも終りに近づいた 8 月 23 日の土曜日に、ぼくは小学校の友達といっしょに、「親子漁業体験」に参加しました。内容は、ハマチの養殖場と底びきあみ漁船を見学するというものです。

まず始めに、船の上で守らなければいけないこと、さわると危険な魚のこと、底びきあみのしくみについて説明を受けました。そして救命どう衣をつけると、いよいよ船に乗りこみました。船は 2 せきあって、ぼくが乗ったのは大きなほうの船でした。海はとてもおだやかで、船は海の上をすべるように進みました。風がとても気持ちよくて、あっという間にハマチの養殖場につきました。

養殖場では、エサやりの船がマシンガンのような機械でエサをやっていました。ハマチはとても元気よく、バシャバシャと跳びはねて、エサを食べていました。次に少し移動して他の小割あみに行きました。そこでは、ぼく達が実際にエサをやりました。そのエサは、コイのエサを大きくしたようなものでした。みんなで、エサを投げ込むと、ハマチがすごいスピードで泳いできて食べました。はじめはびっくりしたけど、だんだんおもしろくなりました。何よりも海を泳ぐハマチが、キラキラとかがやいてとてもきれいで、力強い姿が心に残りました。

最後は、待ちに待った底びきあみ漁船「日栄丸」の見学です。その船には、ぼくの親友のお父さんが乗っています。日栄丸に近づくと、もう底びきあみの引き上げを始めていました。おじさんは、なんとたった一人で大きい船を操作していました。ぼくはすごいなあと思いました。おじさんがいつもと違う人に見えました。あみが上がるとぼく達は、日栄丸に乗り込みました。あみの中には、大ダコやイカ、他にもたくさんの魚がいて、ぼく達は大喜びです。スーパーに並んでいる魚は、こんな方法でぼく達のもとにとどいていたのかと、感動しました。そして、おじさんは、とれたてのイカをさばいて食べさせてくれました。イカは小さかったけど、いつも食べているものよりも、ずっとずっとおいしく感じられました。

それから、とれた魚は、おみやげで持って帰ることができました。その日の晩ご飯は、海の幸がいっぱいでした。ぼくは、船を操るおじさんのカッコいい姿や、船に上がったピチピチの魚のことをお父さんや妹に話しながら食べました。とてもおいしかったです。今回の漁業体験は、いろんな発見があって本当に楽しかったです。

## 「海であそぶ親子」

多度津町立四箇小学校 6 年 山下 茄菜



## トピックス

平成 14 年の県内漁業生産額

- 過去 20 年で最低

中国四国農政局高松統計情報センターは 12 月 22 日、平成 14 年の県内漁業生産額を発表した。それによると、14 年の本県の漁業生産額は 299 億 8,200 万円で、前年に比べ 35 億 2,800 万円 (11%) 減少し過去 20 年で最低となった。

このうち海面漁業の生産額は、漁獲量の増加により 90 億 9,600 万円で 14 億 200 万円増加したが、海面養殖業の生産額は、ノリ養殖の不振により 208 億 8,600 万円で 49 億 3,000 万円減少した。

### 主な行事予定 (3/1~3/31)

- 3 月 9 日(火) 香川県水産研究発表会
- 10 日(水) 海づくり大会水産団体協議会幹事会
- 14 日(日) 第 9 回のり入札
- 16 日(火) 四国四県会長会議
- 22 日(月) 海づくり大会水産団体協議会委員会
- 26 日(金) 漁連理事会
- 29 日(月) (社)香川県水産振興協会総会
- 30 日(火) 第 10 回のり入札